

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名		唐津市立平原小学校											
1 前年度 評価結果の概要		・唐津市学力向上推進校であった昨年度に引き続き、学力向上を目指すとともに、家庭とも連携しながら新しい方法を模索し課題解決に向けて取り組んでいく必要がある。 ・キャリア教育の理解・充実に向けて、教育課程内でできることを明らかにして児童のキャリアアップを支えていく。 ・心の教育では、いじめの未然防止、早期発見・早期対応を柱として、学校が組織的・具体的に対応できるようにしていく。さらに、学校の特色を活かしながら、児童の自己肯定感が高まるような機会を多くつくっていく。挨拶のさらなる推進と言葉遣いの指導を行っていく。 ・保護者、地域連携では、家庭学習の充実、「進んで挨拶する」「自分の考えを伝える」「言葉を大切に使う」という基本的な生活習慣の確立に向けて、生活習慣点検週間を設けるなど、保護者にも周知を図りながら全校的な取組を今後も積極的に実施していく。また、学校に定着した「ひまわり」「メダカ池、ホタル川」の充実を図り、情報を発信していきたい。 ・健康・体力づくりについては、外で元気よく遊ぶことの奨励とともに社会体育での頑張りについても学校で積極的に紹介していくなど、継続して連携を図っていく。											
2 学校教育目標		自ら学び、心豊かにたくましく生き抜く平原っ子の育成											
3 本年度の重点目標		1 思いやりの心を持ち、ふるさとを愛し、自らの夢を育む子どもの育成 2 小規模学級・学校の強みを活かした学力向上への取組（自力解決力と振り返る力の育成） 3 職員の協働意識と学校運営への参画意識を高める「チーム平原」の強化（共通理解と共通実践） 4 保護者・地域・外部の人材とのさらなる連携強化											
4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者			
(1)共通評価項目													
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価					
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言				
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○学力向上対策評価シートに示した成果指標を達成した教師90%以上		・実践した内容を共有し、それを基に単元計画を立て、積極的に実践する。 ・アンケート結果を基に課題を精査し、改善を図る場を設定する。						各担任 研究主任 学力向上コーディネーター			
	○単元終末の活動を見据えた計画と児童との共有 ○児童の思考を促す交流活動の工夫 ○タブレット活用の促進	○アンケートで、自主的に、意欲的に勉強をしていると答える児童80%以上 ○アンケートでタブレットの技能が向上したと答える児童80%以上		・授業での課題解決学習、家庭学習など自主的に意欲的に取り組むような手立てを探索 ・タブレットの技能向上を図るため、タイピング選手権を行い表彰する						各担任 研究主任 学力向上コーディネーター			
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権や道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童が80%以上。 ○言葉遣いに関するアンケートにより、肯定的な回答をした児童が80%以上。		・道徳の授業の「親切・思いやり」や「公正・公平・社会正義」「生命の尊さ」などの内容項目を通して互いを尊重しあえる児童の育成を図る。 ・なかよし集会を通して、言葉遣いや人との関わりのスキル向上を図る。						道徳教育推進教師 心ゆたか部			
	●いじめの早期発見・早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止について組織的な対応ができていと回答をした教員80%以上		・毎月児童に「月のこころ」のアンケートをとる。 ・学級や児童の生活情報交換の時間を毎月職員会議の際に設ける。 ・						生活指導担当 人権同和教育担当			
	●◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上		・周りの会や観察物などよいところを紹介したり、教師の積極的な声かけにより、友達や教師から認められていると感じる場面を作るとともにその能力を伸ばす。 ・学校行事や縦割り班活動の際に司会や交流の場を積極的に設け、発表の機会を設定し、活躍の場をつくる。 ・行事によって実行委員会を設け、各学年から代表を選ぶことで、活躍の場をつくる。 ・「キャリア教育」により、自分がなりたい、興味のある職業を調べ、将来への展望をもたせる。							各担任 特活部		
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○健康に良い食事を心がけてると回答した児童85%以上		・給食時間を活用し、食育や生活習慣などの指導をすることで健康意識を高める。						保体部			
	○健康に対する意識の向上	○休み時間や昼休みなどに進んで運動をしているかについてのアンケートで、肯定的な回答をしている児童80%以上		・学級レクの時間設定の推進と場の開放を行う。昼休みなどの外遊びを推奨する。						保体部			
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上		・時間外勤務月平均12時間以内の実現に向けて、実践を促す。 ・業務を1人で抱え込むことがないようにサポート体制を作る。						管理職			
●特別支援教育の充実	○職員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関して、職員が「理解している」と回答する割合80%		・月1回の児童の生活情報交換において児童の様子について情報共有の時間を設け、職員全体で指導にあたる。 ・随時「支援会議」を開催し、児童の様子や保護者の願いを共有する。 ・特別支援教育に関する校内研修会を開催する。						特別支援教育担当			
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目												主な担当者	
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価					
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言				
○体づくり	○安全に関する資質・能力の育成	○交通安全に気を付けていると答えた児童の割合を100%にする。		・年度初めの交通安全教室を実施する。また、自然災害等について考えさせる機会を確保し、安全への意識づけをする。						生活指導担当			
5 総合評価・次年度への展望		●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育											